

令和 2 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立難波中学校

令和 3 年 2 月

学校教育目標

- 豊かな心をもち、自らの人生を切り拓いていける生徒を育成する。
- 教職員集団がそれぞれの能力を発揮し、連携・協力し、子どもたちを最大限に成長させる教育活動を追求する。
- 一人ひとりの生徒を大切にする教育を進め、人権尊重の精神にあふれる学校づくりを推進する。人権教育活動に力を入れる地域性や歴史・伝統等の特色を生かし、学校全体の人権感覚を高める。

子ども像(校訓) 自律・協力・創造

- 自ら考え、正しく判断し、行動できる子ども
- 人を思いやる優しい心で、お互いの人権を尊重し、社会から必要とされる、求められる子ども
- 心身を鍛え、努力を積み重ねることで、新しい発想や考え方、チャレンジ精神を持つ子ども

大阪市教育振興基本計画：最重要目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 教科指導の方法を工夫・改善し、ICT 機器の活用等を通して、授業の質を高め、子ども一人ひとりの状況に応じた学力を向上させる。
- 子どもの学習習慣の確立に向けて、個に応じた教育の充実を図る。また、小中の連携をさらに強化する。
- 規則正しい生活習慣を身につけ、健康や体力の保持・増進について関心を高め、たくましく生きる基礎体力づくりをめざす。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 教育活動のあらゆる場面で自尊感情を高めるとともに、違いを認めあい、他者理解ができる確かな人権感覚のある生徒の育成をめざす。
- 子どもたちが良好な人間関係を構築し、自己実現できる学級・学年集団、学校づくりを推進する。
- 学校・家庭・地域が防災・減災教育を始めとする安全教育などで連携し、強固な教育コミュニティの形成に力を注ぐ。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 安全・安心な学校づくりをめざして、全教職員が連携して問題行動を未然に防止する指導に力を入れて取り組み、学校の規律を維持している。また、豊かな心を育む教育を推進し、他者を思いやる優しい心の育成に努めている。さらに、学校の教育活動のあらゆる場面で生徒に自信を持たせるよう取り組み、自尊感情を高めるようにも努めている。しかし、日本語の指導や配慮を要する生徒が増えており、個に応じた支援をさらに充実させていかなければならない状況が年々厳しさを増している。
- 学習面では、ICT 機器を活用し、生徒の関心・興味を高めつつ、個に応じた学習を進めているが、学習習慣の定着がはかりきれしていない。全国学力・学習状況調査や中学校チャレンジテストにおいて、本校の各項目の平均正答率は大阪市の平均に及ばず、学力の向上が喫緊の課題である。
- また、起床時間や就寝時間など基本的な生活習慣においても課題があり、さらに家庭と連携しながら、生活のリズムを整え、健康の保持・体力の向上もはかっていかなければならない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて組織的に対応している割合を 100%にする。

H29	100%	H31	100%	R1	100%	R2	93.3%
-----	------	-----	------	----	------	----	-------

- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を毎年、前年度より減少させる。

H29	2 人	H31	1 人	R1	0 人	R2	1 人
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	-----

- 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。

H29	4.42%	H31	7.82%	R1	11.30%	R2	9.09%
-----	-------	-----	-------	----	--------	----	-------

- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」^①、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」^②の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 75%以上に維持する。

①	H29	89.0%	H31	91.8%	R1	93.9%	R2	96.8%
---	-----	-------	-----	-------	----	-------	----	-------

②	H29	90.2%	H31	91.1%	R1	87.1%	R2	92.9%
---	-----	-------	-----	-------	----	-------	----	-------

- 令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

R2	95.8%
----	-------

- 令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「自分の悩みを相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合をそれぞれ 90%以上にする。

R2	84.1%
----	-------

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答率が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)

1 年生	H28	86.6	R2	88.3
------	-----	------	----	------

2 年生	H28	88.0	R2	85.8
3 年生	H28	88.3	R2	未実施

- 令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 4 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 28 年度より 10 ポイント減少させる。

1 年生	H28	40.0	R2	33.9
2 年生	H28	43.1	R2	48.1
3 年生	H28	50.8	R2	未実施

- 令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント増加させる。

1 年生	H28	18.3	R2	11.9
2 年生	H28	5.2	R2	13.0
3 年生	H28	3.2	R2	未実施

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を平成 28 年度より増加させる。

H28	53.4%	R2	81.6%	※校内調査(3 年)
-----	-------	----	-------	------------

- 令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を、平成 28 年度より 7 ポイント向上させる。

男子	H28	38.68	R2	37.67	※新体力テスト
女子	H28	45.53	R2	45.66	※新体力テスト

- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の生徒アンケートにおける「毎日朝食をとっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 70%以上に維持する。

H29	72.1%	H31	63.2%	R1	80.9%	R2	84.4%
-----	-------	-----	-------	----	-------	----	-------

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%以上にする。

R2	93.3%
----	-------

- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

R2	95.8%
----	-------

- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

R1	0 人	R2	1 人
----	-----	----	-----

- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

R1	1.70%	R2	2.27%
----	-------	----	-------

学校園の年度目標

- 令和2年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を90%以上にする。

R2	96.8%	93.4%	92.9%
----	-------	-------	-------

- 令和2年度末の保護者・生徒アンケートにおける「悩み事ができたときに相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者の割合を65%以上、生徒の割合を80%以上にする。

保護者	R2	64.5%	生徒	R2	84.1%
-----	----	-------	----	----	-------

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

1年生	3教科	R1		R2	0.86
2年生	3教科	R1	0.87	R2	0.80
3年生	5教科	R1	0.82	R2	実施せず

- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

1年生	3教科	R1		R2	33.9
2年生	3教科	R1	34.0	R2	41.1
3年生	5教科	R1	46.7	R2	実施せず

- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。

1年生	3教科	R1		R2	13.6
2年生	3教科	R1	17.0	R2	14.3
3年生	5教科	R1	22.2	R2	実施せず

- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

R1	70.1%	R2	81.3%(1回目)、80.8%(2回目)
----	-------	----	-----------------------

- 体育の授業で、全身運動や柔軟性を高める活動を毎時間行い、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「上体起こし」、「長座体前屈」で大阪市平均に近づけ、体力合計点を向上させる。※()内は平均

上体起こし	男子	R1	24.67(27.39)	R2	25.96
	女子	R1	24.22(24.15)	R2	24.00
長座体前屈	男子	R1	37.67(41.41)	R2	39.88
	女子	R1	43.50(45.67)	R2	46.55
体力合計点	男子	R1	32.71(41.04)	R2	37.67
	女子	R1	42.91(50.13)	R2	45.66

学校園の年度目標

- 新体力テストを実施し、昨年度の体力合計点を維持・向上させる。

体力合計点	男子	R1	32.71	R2	37.67
	女子	R1	42.91	R2	45.66

- 専門的な知識を持った講師を外部から招くか、特別授業の監修を受け、食育と保健関係の特別授業を年 3 回以上実施する。

R2	9 回
----	-----

- 歯磨き指導に力を入れ、令和 2 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「毎日歯磨きをしている」の項目について、肯定的な回答を 60%以上にする。

R2	保護者 97.4%、生徒 98.8%
----	--------------------

- 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「毎日朝食をとっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 70%以上にする。

R2	84.4%
----	-------

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

各目標の半数以上は基準をクリアし、子どもたち一人ひとりが安心して過ごすことのできる居場所づくりに努めてきた。いじめについては解消率 100%となっていないが、各事案に即対応し、3 ヶ月の経過を見守っている状況である。

不登校などの長欠生徒や、人間関係等が原因で別室対応が必要な生徒、言語の壁により日本語支援が必要な生徒もいる現状の中、生徒・保護者の想いを受け止め、絶えずアンテナを張り、相談しやすい学校として、アプローチの手法等、教員間で教職員研修を重ね、サポーター等も活用し、個に応じた支援も継続する必要がある。

また、生徒の命に関わる重大事案と不登校が重なった場合に、誰にも気づかれずに事態が深刻化するリスクがあるという点について、常に注意を払う必要があり、関係諸機関との積極的な連携、定期的な安否確認を含めた継続対応が必要である。

さらに、自己肯定感が低く、自信がない生徒が多いと感じられることも本校の課題である。人権教育、キャリア教育などを各教科等と密接に往還し、自他を尊重し思いやる心、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、教育課程の充実を図ることが必要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

例年通り実施できなかった調査(全国学力・学習状況調査、全国体力・運動能力、運動習慣等調査、3 年生チャレンジテスト等)があるので、直接比較はできないが、校内での調査と比較すると、達成できた項目は多い。

しかし、基礎学力の定着、授業規律、基本的な生活習慣、家庭学習の習慣、朝ごはんの摂取など、まだまだ課題は多く、補充学習、放課後自主学習会などの個に応じた取り組みや、家庭への啓発活動を一層工夫し、今後も継続する必要がある。

そのためには、生徒の興味・関心を高め、学習内容の習得について生徒が認識できるようにすることと、主体的・対話的で深い学びを一層すすめること、教育課程や評価方法の可視化、情報の集約化を行う必要がある。また、リーディングスキルテストを実施し、その結果分析から、つまづきや理解の偏りを把握し、個に応じた指導の工夫に役立てる。

さらに、欠席生徒への学力保障や、習熟度の差を解消する個別最適化の学びのために、2 月末に整備される一人一台端末を積極的・効果的に活用し、これまでのスタイルにとられない授業を展開するために、教員研修を重ねる必要がある。

健康・体力面では、コロナ禍で様々な制限を受けながらも、学校医の協力を得ての啓発活動を実施したり、講師を招いての特別講座を実施した。体育科でもタブレットを活用した振り返りなど、創意工夫を凝らした授業に取り組んだ。歯科の受診率は昨年度よりも向上したが、家庭や地域とのさらなる連携のもと、歯科に限らず受診率を向上させる必要がある。

大阪市立難波中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】	
全市共通目標	
<ul style="list-style-type: none">● 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%以上にする。<div><div>R2</div><div>93.3%</div></div>● 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。<div><div>R2</div><div>95.8%</div></div>● 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。<div><div>R1</div><div>0 人</div><div>R2</div><div>1 人</div></div>● 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。<div><div>R1</div><div>1.70%</div><div>R2</div><div>2.27%</div></div>	
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none">● 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 90%以上にする。<div><div>R2</div><div>96.8%</div><div>93.4%</div><div>92.9%</div></div>● 令和 2 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「悩み事ができたときに相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者の割合を 65%以上、生徒の割合を 80%以上にする。<div><div>保護者</div><div>R2</div><div>64.5%</div><div>生徒</div><div>R2</div><div>84.1%</div></div>	

C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(いじめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の様子をじっくり聞ける機会を定期的に設けながら、主任会や職員会議で生徒の情報交換や道徳・人権学習の取組みの成果を確認する。また、対応が起こればすぐに情報共有を行い、連携していじめの未然防止や早期対応に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年に 2 回以上の教育相談や、折に触れて個人懇談を行い、生徒一人ひとりが抱える問題の解決に努める。週末には学級で学校生活を振り返るアンケートを行う。いじめに関するアンケートも 	B

<p>生徒が書きやすい雰囲気作りをした上で、学期に2回以上実施し、いじめの早期発見・早期解決に努める。また、道徳・人権学習を生徒の発達段階に合わせて系統的・計画的にいじめ防止の学習を実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(暴力行為)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 暴力行為が発生すれば、教職員全員が協力し、被害を最小に抑えるよう迅速に対応する。さらに、必要に応じて外部の関係諸機関とも連携し、情報交換をしながら緊急時への対応ができるような体制を作る。登下校、休み時間における校内の生徒の様子を見守り、授業への入り込み等を強化し、協力体制を築く。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度当初に学校生活に関する申し合わせ事項で暴力行為が起きた際の対応について共通認識できる校内研修を実施し、いざという時の教職員間の協力体制を確認する。登下校、休み時間における校内巡視を必要に応じて行うことで暴力行為の未然防止を状況に応じて行う。また、協働員連絡会や要対協、こども相談センター、こどもサポートネットなどの関係諸機関との連携を定期的の実施し、バックアップ体制を作る。 	<p>B</p>
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(不登校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校生に対する定期的な家庭訪問を行う。対応に際しては、必ずしも登校を前提とせず、進路を見据えて、生徒が社会的に自立できることを念頭に置くなど、不登校生の生徒理解や考え方に関する研修を実施する。スクールカウンセラー、学校元気アップ、こどもサポートネット、フリースクール等民間機関など、生徒に応じた様々な関係諸機関と連携し、出席や評価に関して安心感を持てる体制を作る。また、不登校生徒が登校した際には温かく迎え、必要に応じて教室外の部屋を整備することを検討する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 月に3回(主任会・生活指導部会・職員会議)で生徒の情報交換を行い、その際に不登校生現状把握を行う。欠席しがちな生徒に対して、定期的に家庭訪問や家庭連絡を行う。登校できるものの、教室に入りにくい状況にある生徒に対しては、学校登校後に他の生徒との接触を控えた教室整備の体制作りも考える。長期間におよぶ欠席生徒のうち、教員が面会しにくい状況があれば、生徒の状況に応じて関係諸機関と連携する。これらの取り組みによって、新たに不登校になる生徒の数を前年度より減少させる。 	<p>C</p>
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(規範意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の規則を守る意識や学校生活を送るうえでのマナーをわかまえるなど、生徒の規範意識を高める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎月初めの全校集会で「服装点検」を実施し、身だしなみを整えることを意識づけする。テスト前一週間に「遅刻防止週間」を実施し、時間を守ることへの意識づけをする。また、委員会活動の一環として生徒も含めた毎週の登校指導や清掃活動、月1回の生徒議会を活用して生徒自身から規則やマナーを守る自助活動の推進を図る。その他、授業時間中の校内巡視など様々な場面で生徒への声掛けを行い、規範意識の向上と器物破損の未然防止・確認に努め 	<p>A</p>

る。	
取組内容⑤【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(悩み事の相談) <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒・保護者の悩み事を相談できる環境を整える。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 友人・学業・身体・SNS・家庭等、多岐に渡る悩み事に対応するため、項目別の悩み調査用紙を学期に 1 回以上実施し、それを元に年に 2 回以上の教育相談を実施する。教育相談の方法については 1 対 1 の形にこだわらず、生徒が安心して話せる環境作りをするため、職員が共通理解できる研修も教育相談前に実施する。保護者への電話連絡や、定期懇談会のやり方を工夫し、保護者の相談に乗れるような時間を作る。また、表面化しにくい家庭における悩み事に対しては、担任や学年教員のみでなく、養護教諭やスクールカウンセラー、元気アップ地域コーディネーターなどと、生徒の状況や要望に応じて連携し、地域・関係諸機関との協力体制を作る。 	C
取組内容⑥【施策 2 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● 人権教育年間指導計画にそって、人権に関する取り組みを実施する。特に、同和教育、平和教育、特別支援教育、国際理解教育の 4 つを人権教育の柱とし、3 年間でこれらを組織的・系統的に取り組み、人権総合学習の充実を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 同和教育……地域産業でもある太鼓・皮革等について学ぶ ● 平和教育……8・6 人権平和登校日、ピースおおさか見学 ● 特別支援教育……車いす体験学習、視覚障がい者による講話等での学習 ● 国際理解教育……ソンセンニム、ゲストティーチャー等による学習 ● 生徒アンケートで「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」について肯定的な回答を 90%以上とする。 	A
取組内容⑦【施策 2 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな学校行事を通して、集団の中での自分の役割と責任を自覚させる。また、相手を思いやり、優しい心を持って行動できる態度を育てる。特に、校訓である「自律」、「協力」、「創造」を意識させていく。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校全体……体育大会、文化活動発表会、なにわこども人権文化祭、小中交流活動 ● 1 年生……一泊移住 ● 2 年生……校外学習(大阪市内班別行動) ● 3 年生……修学旅行 ● 生徒アンケートで「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」や「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」について肯定的な回答を 90%以上とする。 	B
取組内容⑧【施策 2 道徳心・社会性の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● 3 年間で系統的に行うキャリア教育を通して勤労観・職業観を養うとともに、自尊感情を高め、 	C

<p>自己の将来について考えさせる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1年生……専門・専修学校体験講座、職業講話等による学習 ● 2年生……職場体験学習、卒業生講話等による学習 ● 3年生……進路学習、進路懇談 ● 生徒アンケートで「職業について興味を持ち、自分の将来について考える」について肯定的な回答を85%以上とする。 	
<p>取組内容⑨【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個別的教育支援計画を作成することで、「障がい」のある生徒の育ちを支援するとともに、自他を尊重しながらまわりの生徒と共にたすけあい、生きる集団をめざす。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個別的教育支援計画・指導計画をもとに特別支援教育委員会等で検討会を随時行い、情報を交換し、各学年の取り組みをすすめる。生徒アンケートでは、「障がいのある人について思いやることができる」について肯定的な回答を90%以上とする。 	A
<p>取組内容⑩【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他国の文化にふれることで、自らのアイデンティティを自覚し、多文化共生社会の中で生きていける生徒を育成する。また、さまざまな考えを受け入れる集団づくりをすすめる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際クラブや渡日の子どもたちのための学習会などを週1、2回行う。また、自他の文化を互いに尊重できる集団の育成のための取り組みを、国際理解教育を軸として各学年ですすめる。生徒アンケートで「外国人や外国につながる人のある人を思いやることができる」について肯定的な回答を90%以上とする。 	B
<p>取組内容⑪【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から、「特別の教科 道徳」が完全実施された。道徳の教科書『中学生の道徳』(1～3年生)を通して、様々な「気づき」を促し、学校生活、家庭生活や社会生活において必要とされる行動につなげていく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本校の子ども像にあるように、「自ら考え、正しく判断し、行動できる子ども」「人を思いやる優しい心で、お互いの人権を尊重し、社会から必要とされる、求められる子ども」の育成に努める。生徒アンケートでは、「道徳の授業を通して、自分を見つめて考えることができる」について肯定的な回答を80%以上とする。 	B
<p>取組内容⑫【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校図書館に機器を導入し、図書館の活性化、バーコード化に向けての準備を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員アンケートの「図書の管理がしやすくなった」に対する肯定的回答を95%以上にする。 	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①について

- 現時点で、全学年合わせて 15 件のいじめ事案を認知している。
- 15 件のうち、14 件は 3 カ月の経過を観察して、聞き取りやアンケートを通じて解消に至っている。
- 1 件については、現在 3 カ月の目安の経過観察中であり、今後教育相談・保護者懇談会等を通じて確認していく予定である。
- いじめ事案は起こりうるものであるという危機感のもと、引き続き発生した場合には、学年・生徒指導主事・管理職が密に連携をし、心身のケアも含めて、組織としての解消に努めていく。
- 学校評価アンケート生徒「いじめかもしれないと感じたとき、家の人や先生に相談できる」への肯定的な回答は 70.1%であった。否定的な回答が 29.1%であり、2 学期に実施したいじめアンケートに「いじめがあった」と表に出して書いた生徒の割合(9.27%)と比べると、約 20%の差があった。
- 学校評価アンケート保護者「学校は週末のアンケートや子どもとの面談等を通じて、いじめの早期発見、解決に努めている」への肯定的な回答は 65.8%、「分からない」の回答は 28.4%であった。

取組内容②について

- 現時点での暴力行為は 3 件。
- 暴力行為発生時には、学年によらず多くの教員・ケガがあれば養護教諭と連携をし、管理職への報告を行い、心身のケア・指導に努めている。
- 現在、警察等の外部機関と連携する大きな暴力事案には発展していない。
- 学校評価アンケート生徒「学校で暴力行為があった場合、家の人や先生に相談できる」への肯定的な回答は 79.0%であった。

取組内容③について

- 昨年度と同様に不登校の生徒数は多い。
- 新たに不登校となる生徒の数は、定期的な家庭訪問・家庭連絡に加えて、スクールカウンセラー、別室から始める等の取り組みを進めたものの、昨年度よりも増加した。
- 不登校に対する考え方について、教員向けに研修を行い、最新の考え方についての情報を共有した。
- 生徒の情報交換会は月 3 回必ず行っている。いじめ事案や暴力行為、その他の大きな要因と不登校が絡む場合には特に注意が必要なため、見逃すことのないように確認している。
- 学校評価アンケート生徒「風邪などをのぞいて、学校に登校することがしんどくなった場合、家の人や先生に相談できる」への肯定的な回答は 73.7%であった。

取組内容④について

- 遅刻防止週間の表彰を行うことで、時間を守ることへの動機付けを行っている。
- 服装不備のある生徒への物品の貸し出し対応は、現在感染拡大防止の観点からできない状態ではあるが、啓発により声掛け対応を進めている。
- 体育館での全校集会が 2 学期の間は続けられたが、12 月より再度感染拡大防止の観点からオンラインの形になり、先輩の姿勢を見習う、朝のいいリズムを構築する機会、学年間で互に見習う機会が減っている現状がある。
- 学校評価アンケート生徒「学校の規則やマナーを守っている」への肯定的な回答は 95.8%であった。

取組内容⑤について

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 学校評価アンケート生徒「悩み事があるときに相談ができる人がいる」への肯定的な回答は 84.1%であり、中間反省時より 3.6%減少した。年度が進むにつれて減少している点には注意が必要であるが、思春期の子どもに対し、その原因の特定をする評価材料がないことも考慮できる。
- 学校評価アンケート保護者「学校は悩み事を抱えた子どもに対して丁寧に対応している」への肯定的な回答は 64.5%であり、中間反省時より 8.9%増加した。また、「分からない」と回答した保護者は 28.4%であり、中間反省時より 7.4%減少し、取り組み内容①の保護者「分からない」と同じ数値(28.4%)となった。
- 週 1 回の悩みの相談用紙の実施、年に 2 回以上の教育相談体制の構築、保護者とのこまめな連絡交換を行っている。
- 生徒はもとより、保護者についても、抱える悩み事が複雑な場合にはスクールカウンセラーへの相談の提案を進めているが、いまだ周知に課題がある。

取組内容⑥について

- 学校評価アンケート(生徒最終)から、「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んでいる」については、全学年の 93.4%(昨年 94%)が肯定的に考えている。1 年生は 94.9%(昨年 91%)、2 年生は 93.2%(昨年 100%)、3 年は 91.8%(昨年 92%)となっている。肯定的に考えている割合は昨年と差はない。しかし、6.6%が否定的にとらえているので、今後もいねいに取り組みを続けていく。

取組内容⑦について

- 学校評価アンケート(生徒最終)から、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できる」については、全学年で 92.9%(昨年 87%)が肯定的に考えている。学年ごとでは 1 年生は 98.3%(昨年 81%)、2 年生は 90.6%(昨年 90%)、3 年は 88.9%(昨年 92%)となっている。昨年度より肯定的に考えている割合が 5%増加している。学校生活の中において人を傷つける言動などの場面もある。その都度指摘して反省をうながし、自尊感情を育んでいく一方で、時間をかけて他者を思いやれるような取り組みをすすめていく。

取組内容⑧について

- 学校評価アンケート(生徒最終)から、「いろいろな職業について興味を持ち、自分の将来や生き方について考えた」については、全学年の 74.9%(昨年 76%)が肯定的に考えている。1 年生は 76.3%(昨年 66%)、2 年生は 69.5%(昨年 75%)、3 年は 79.6%(昨年 90%)となっている。昨年と同様、他の取組内容よりも 20%近く低いので、将来を見据えた進路を考える取り組みを検討していく。

取組内容⑨について

- 学校評価アンケート(生徒最終)から、「障がいのある人について思いやることができる」については、全学年で 95.5%(昨年 93%)が肯定的に考えている。1 年生で 98.3%(昨年 91%)、2 年生は 94.4%(昨年 93%)、3 年生は 93.3%(昨年 96%)となっている。まだ、人を傷つける発言もあり、理解をすすめるための取り組みを進めていく。

取組内容⑩について

- 学校評価アンケート(生徒最終)から、「外国につながる人のある人を思いやることができる」については、全学年で 96.8%(昨年 94%)が肯定的に考えている。1 年生は 98.3%(昨年 95%)、2 年生は 98.1%(昨年 90%)、3 年は 93.3%(昨年 96%)となっている。週 1 回の国際クラブや渡日生徒への学習会がお互いの理解につながっていると考えられる。ここ最近、外国にルーツのある生徒が増加している。難波中学校外国人教育

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>基本方針をもとに、多文化共生を大切にしながら、文化活動発表会などの機会をいかして、生徒の理解を深められるように進めていく。</p>
<p>取組内容⑪について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価アンケート(生徒最終)から、今年度から道徳が「特別の教科 道徳」として全面实施されている。「道徳の授業を通して、自分を見つめて考えることができる」については、全体では 87%(昨年 80%)が肯定的に考えており、昨年よりも 7%上昇した。1 年生は 93%(昨年 83%)、2 年生は 82%(昨年 78%)、3 年は 84%(昨年 78%)となっている。中間反省時より全学年で肯定的に考えている割合が 2%程度減少している。学年の状況に応じて教科書の読み物資料を活用して、生徒間の対話を通して多くの気づきから行動できる生徒の育成をはかっていく。また、来年度は教科書がかわるので、読み物資料の内容の検討を進める必要がある。
<p>取組内容⑫について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 夏季休業期間中に図書管理用の PC やスキャナ等機器や蔵書管理ソフトを導入し、現在、図書館補助員と連携し、教職員や文芸部員も総動員してバーコード化を進めている。12 月時点での教員アンケートにおける「図書の管理がしやすくなった」に対する肯定的回答は 68.2%となった。7 月時点での調査結果 23.1%からは大幅に伸びたが、目標の 95%以上には届いていない。しかしながら、電算化も 5000 冊まで進み、何とか年度内に完了する見込みである。
次年度(今後)への改善点
<p>①いじめアンケートとの結果の差異が大きい点に注目すると、心の中ではいじめと認識しているが、それを学校でも家庭でも表に出せないままにいる生徒が一定数いることが分かる。</p> <p>この点については、⑤とも同じ課題であると考えられる。すなわち、「相談しやすい制度」と「相談しやすい教員団の育成」の両面の取り組みが必要であるということである。具体的には、「教育相談の方法の見直し」と、生徒が「この先生には相談しても大丈夫かもしれない」と思えるようなアプローチのノウハウを教員間で活発に学び合う姿勢が求められると考える。</p> <p>⑤の保護者アンケートの、中間反省時から今回にかけての「分からない」の回答率が、ほぼ肯定的な回答率の方へと変化した点について考察する。注目すべきは、年度が進むに連れて徐々に保護者は学校へ悩みを相談しやすくなってきているのではないかという点である。相談体制には「時間の経過」という側面も大きいことを念頭に置き、単発的な保護者対応に終始せず、長期的な視点で丁寧に保護者との関係作りをしていく必要があることの証左であると考ええる。</p> <p>③については、平成 30 年度の通達で「不登校は学校に来ることを必ずしも前提としない」という文言が盛り込まれた反面、一方で重大事案と不登校が重なった場合に、誰にも気づかれずに事態が深刻化するリスクがあるという点には常に注意を払う必要があると考える。生徒が学校に登校しづらい場合に、学校と真に連携できる安全な機関が確保され、定期的な安否確認を絶やさず行う等の対応ができるのか、という視点を重要視するため、不登校に対する教員向けの研修は毎年行っていく必要があると考える。</p> <p>学校内の体制の構築ばかりではなく、全体を通して、外部機関の積極的な活用が依然として進んでいないという側面も指摘できる。学校が諸問題すべての相談に乗り、解決できると考えてしまうと、緊急時の重大な見落としにつながる可能性もある。現に学校への相談がなじまない生徒・保護者もアンケートの結果一定数存在することが分かっているからには、そこに対する外部機関との連携という視点が必要であると考ええる。</p>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

一方で、保護者も生徒も外部機関に頼るのはハードルが高いと感じることもあるのではないかな。そこで、まずは校内に定期的に訪問があるスクールカウンセラーへの接続を、もっと悩みの種が小さなうちから積極的に進める、心が傷つく事象があれば単発での利用でもよいので進めることで、そのハードルも下がると考えられる。また、保護者のスクールカウンセリングも推奨する方法を検討すべきである。そして、必要とあればその先に、さらなる専門的な外部機関への連携を見据える必要があるのではないかな。

最後に、様々な課題について、外部の講師を招くことも重要であると考え。生徒・保護者が学校以外の機関からの情報を得ながら、時には相談してみようとするなど、視野を広げてもらえる場所の提供も、積極的に検討する必要があると考える。

⑥人権教育年間指導計画にそって、人権に関する取り組みを実施する。年間計画は設定するが、人権教育部会を中心にして、主任会等校内で企画内容を検討し、各学年と連携しながら生徒の実情に応じた取り組みを学校全体で検討していく必要がある。

⑦学校行事は生徒にとって興味関心が高い。そのような行事を通して他者への思いやりや集団としてのルールを守ることの大切さを、道徳の教科書の読み物資料と合わせて心の育成をはからねばならない。

⑧キャリア教育は生徒にとって、実感がわかない面もあり職業への興味や自分の将来について考えることが生徒アンケート結果をみても低い。学校全体や各学年での取り組みの中でより仕事等に興味関心をもち、さらに高めていけるように進めていかねばならない。

⑨特別支援教育委員会や職員会議等で、支援の必要な生徒の個々の特性をまず教職員が把握し、人権教育部や特別支援教育担当と密に連携して、様々な取り組みを通して生徒同士が相互理解を深めていける集団をつくっていかねばならない。

⑩今後も外国にルーツのある生徒が増えていく傾向にあり、多文化の視点で取り組みを「難波中学校在日外国人教育基本方針」をもとに進めていき、生徒の民族的アイデンティティの育成とまわりの生徒間の相互理解を築いていかねばならない。人権教育部、外国人教育主担や校外の「市外教」や「教職員地域研修推進委員会」等とも密に連携してさらに子どもたちが共に生活していける集団をつくる必要がある。

⑪次年度は教科書が「あすを生きる」(日文)になる。読み物資料の内容の検討をはかり、新学習指導要領にもとづいて計画を進める必要がある。記述評価のありかた等をはじめ生徒の状況に合わせた学習内容や時期を効果的に決定していくことも大切である。また、道徳の学習を通して、多くの主人公や登場人物の考え等に共感したり、疑問を感じたりして生徒の心を豊かにすることができるよう進めていきたい。

大阪市立難波中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

A: 目標を上回って達成した

B: 目標どおりに達成した

C: 取り組んだが目標を達成できなかった

D: ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

年度目標

達成状況

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

● 中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

1 年生	3 教科	R1		R2	0.86
2 年生	3 教科	R1	0.87	R2	0.80
3 年生	5 教科	R1	0.82	R2	実施せず

● 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。

1 年生	3 教科	R1		R2	33.9
2 年生	3 教科	R1	34.0	R2	41.1
3 年生	5 教科	R1	46.7	R2	実施せず

● 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。

1 年生	3 教科	R1		R2	13.6
2 年生	3 教科	R1	17.0	R2	14.3
3 年生	5 教科	R1	22.2	R2	実施せず

● 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

R1	70.1%	R2	81.3%(1 回目)、80.8%(2 回目)
----	-------	----	-------------------------

● 体育の授業で、全身運動や柔軟性を高める活動を毎時間行い、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「上体起こし」、「長座体前屈」で大阪市平均に近づけ、体力合計点を向上させる。※()内は平均

上体起こし	男子	R1	24.67(27.39)	R2	25.96
	女子	R1	24.22(24.15)	R2	24.00
長座体前屈	男子	R1	37.67(41.41)	R2	39.88
	女子	R1	43.50(45.67)	R2	46.55
体力合計点	男子	R1	32.71(41.04)	R2	37.67
	女子	R1	42.91(50.13)	R2	45.66

学校園の年度目標

● 新体力テストを実施し、昨年度の体力合計点を維持・向上させる。

B

体力合計点	男子	R1	32.71	R2	37.67
	女子	R1	42.91	R2	45.66

● 専門的な知識を持った講師を外部から招くか、特別授業の監修を受け、食育と保健関係の特別授業を年 3 回以上実施する。

R2	9 回
----	-----

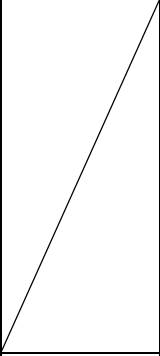
● 歯磨き指導に力を入れ、令和 2 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「毎日歯磨きをしている」の項目について、肯定的な回答を 60%以上にする。

R2	保護者 97.4%、生徒 98.8%
----	--------------------

● 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「毎日朝食をとっている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 70%以上にする。

R2	84.4%
----	-------

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> 国語・数学・英語において、学校力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、複数人体制での授業を充実させる。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 国語・数学・英語において、全学年とも年間を通じて 2 人体制もしくは 3 人体制で授業を実施し、計画的に習熟度別少人数学習や T.T.を行う。 	B
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> 授業の工夫・改善、放課後学習・宿題等を行わせることで個に応じた指導の充実を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 校内調査(生徒アンケート)における「日々の学習において宿題や予・復習の家庭学習を行っている。(放課後やテスト前の学習会への参加を含む)」という問いに対して、肯定的な回答を前年度以上にする。 	A
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> 得点低位層に対する補充学習を行い、基礎・基本の学習の徹底を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 定期テスト・ステップアップテストにおける得点低位層に対し、各教科が各学年と連携して補充学習を行う。また、登校前の朝の時間に自習室を開放し、自学自習を促す。 	C
取組内容④【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> 各学年で家庭学習に向けた取り組みを推進し、学習習慣を定着させる。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 1 年生の初めに配付する「学習の手引き」や 2・3 年生の年度当初のオリエンテーションで、予習・復習等の家庭学習の方法を、年間を通じて継続的に指導する。 校内調査(保護者アンケート)における「学校は宿題等の学習教材を適切に子どもに出すように 	C

<p>努めている。」という問いに対して、肯定的な回答を前年度以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校力 UP コラボレーターや学びサポーターや学校元気アップ事業、人権教育部と連携し、放課後、テスト前、長期休業中の学習会を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多目的室や図書室等の校内の施設を自習室として計画的に開放する。 	<p>B</p>
<p>取組内容⑥【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究授業や教員間の相互授業参観を行い、教員の授業力をのばす。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相互授業参観週間を 2 学期に行う。年 4 回の研究授業を行う。 ● 授業アンケートの「授業の内容が分かるようになっていきますか」に「そう思う」と答える生徒の割合を 52%以上にする。 	<p>A</p>
<p>取組内容⑦【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校全体でのユニバーサルデザインの授業や ICT 機器の活用により、生徒の学習理解の充実を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内研修会を実施し、学校全体でユニバーサルデザインの共通理解を図る。 	<p>B</p>
<p>取組内容⑧【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「主体的・対話的な学び」を取り入れた授業を推進し、また、ICT 機器の活用を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ学習や班学習、ジグソー法などの手法を授業で積極的に取り入れ、生徒が発表、報告、話し合いする機会を多くつくる。 ● 生徒アンケートで、「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ● 電子黒板、タブレット端末等の ICT 機器を活用した授業を計画的に行い、授業アンケートで、「ICT 機器が活用されている」に対して、肯定的に解答する生徒の割合を 70%以上にする。 	<p>A</p>
<p>取組内容⑨【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ホー ムル ーム教室等の整備を行い、ICT を活用した教育を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員アンケートの「ICT を活用した教材の導入がしやすくなった」に対する肯定的回答を 95%以上にする。 ● 生徒アンケートの「ICT 機器を使った授業はわかりやすい」に肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。 	
<p>取組内容⑩【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p>	<p>B</p>

<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な運動習慣を確立させ、自己の状況に応じた体力の向上と心身の調和的発達を図る。 指標 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 新体力テストに向けて授業ではトレーニングを実施し、体力テストを実施する。 	
取組内容⑪【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校全体や各学年等での実施計画に基づき、学校行事の充実を図る。 指標 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 昼休みのボール貸出を実施し、運動上での活動を活性化する。 ● 各学年において、球技大会などのスポーツ活動を年 2 回行う。 	B
取組内容⑫【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● 健康に対する専門的な知識を知り、意識を高める。 指標 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門的な知識を持った講師を外部から招くか、特別授業の監修を受け、食育と保健関係の特別授業を年 3 回以上実施する。 	A
取組内容⑬【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● 歯・口の健康に課題をもつ生徒に対して指導を行い、自らの健康課題を解決しようとする意識を高める。 指標 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 歯科健診での「歯垢の状況」での「歯垢の付着なし」の生徒の割合を 70%以上にする。 ● 歯科の受診率を 10%向上する。 	B
取組内容⑭【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校生活及び校外生活における保健・安全管理に努める。 指標 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎月保健だよりと食育だよりを配付し、生徒及び保護者に健康への意識を浸透させる。 ● 学校保健委員会を年間 2 回、安全衛生委員会を年間 3 回実施し、専門家から定期的にアドバイスを受ける。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①について <ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査(教職員アンケート)における「国語・数学・英語において、学力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、複数人体制での授業が充実している」という問いに対して、肯定的に答えた教職員の割合は 100%→100%であった。 ● 国語科においては、1 学期から 2 人体制で授業を行った。文法や書写の時間にはクラスを 2 分割し、少人数で授業を行った。これによって、文法の授業では個に応じた指導が可能となり、書写の授業では 1 人 1 人に目が行き届き、十分な準備を持って指導にあたることができた。 ● 数学科においては、2 人体制で授業を行ったり、学年を 3 分割した習熟度別の授業を行ったりした。学びサポーターや学年からのサポートも加わり、手厚い指導と支援を行った。 	

- 英語科においては、3 年生は 2 学期から週に 1 時間、クラスを 2 分割し、文法の少人数授業を行った。また、学びサポーターも加わって授業を展開した。
- 国語・数学・英語の 3 教科に限らず、他の教科でも入り込みを行い、複数人で手厚い指導ができた。

取組内容②について

- 校内調査(生徒アンケート)における「日々の学習において宿題や予・復習の家庭学習を行っている。(放課後やテスト前の学習会への参加を含む)」という問いに対して、肯定的に答えた生徒の割合は 71.1%→68.9%であった。割合は減少したがそれでも、前年度の 54.4%から大幅に上昇し、目標を達成した。
- 学年別に前年度の結果と比較すると、肯定的に答えた生徒の割合は、2 年生は 48.3%から 50.8%へ微増した。3 年生は 52.5%から 81.6%へ大きく上昇している。1 年生は経年での比較はできないが、1 回目の 85.0%から 2 回目は 76.3%へ減少している。
- 「定期テストに加えて、授業内で小テストや単元テストを実施し、これに向けての放課後学習や課題の提示を行うことで学習習慣の定着が図られている」という問いに対しては、96.3%→95.5%の教職員が肯定的な回答をした。しかし、「各学年で家庭学習に向けた取り組みを推進し、学習習慣が定着している」という問いに対しては、48.0%→45.5%にとどまった。
- 「教科」から見たときと「学年」から見たときで学習習慣の定着の認識に乖離が見られた。

取組内容③について

- 多くの教科で、授業内で小テストや確認テストを行い、学習内容の定着を図った。学習内容が定着していない生徒は放課後に再テストを行ったり、課題を課したりするなどして学力の定着を図った。
- 3 年生においては、定期テスト前に朝の学習会を行った。学年末テスト前も、朝早くから勉強に励む生徒の姿が多くみられた。
- しかし、「教科」と「学年」が連携する場面は少なく、補充学習も行えなかった。

取組内容④について

- 「学習の手引き」は、分散登校明けの 6 月に 1 年生に配付した。
- 2・3 年生については、初回の授業時にオリエンテーションを行い、予習・復習などの家庭学習の方法、評価の方法などについて丁寧に説明を行った。
- 校内調査(保護者アンケート)における「学校は宿題等の学習教材を適切に子どもに出すように努めている」という問いに対し、肯定的に答えた保護者の割合は 72.8%→72.7%であった。これは昨年度の 84.0%を下回っており、目標は達成できなかった。
- 結果を学年別にみると、肯定的な回答をした保護者の割合は、1 年生 63.2%→73.7%、2 年生 76.4%→61.2%、3 年生 80.0%→84.0%であった。
- 1 年生においては、10 ポイント近く肯定的な回答が増加している。日々の宿題や週末課題等の学習教材の存在が保護者に認識されるようになった。
- しかし、2 年生の保護者においては、肯定的な回答が急減している。校内調査(生徒アンケート)における「日々の学習において宿題や予・復習の家庭学習を行っている。(放課後やテスト前の学習会への参加を含む)」に肯定的に回答した 2 年生の割合は 50.8%のまま変化がない。家庭学習を行う生徒には変化がないにもかかわらず、学校から出される学習教材を認識している保護者の数が減少してしまった。

取組内容⑤について

- 今年度は夏季休業中の学年別の補習や、学校元気アップ事業による学習会は実施しなかった。しかし、例年

週に 2 回行っていた放課後学習会を今年度は週 3 回実施した。また、テスト前の学習会も実施し、学校力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、多くの生徒を受け入れることができた。

- 学校評価アンケートでは、「学校力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、学校元気アップ事業と連動させて、放課後学習会、テスト前学習会、長期休業中の学習会が行われている」という設問に肯定的に答えた教職員の割合は 100%→100%であった。

取組内容⑥について

- 相互授業参観を 9～10 月に実施した。「タブレット機器の活用」をテーマに定め、余裕を持ってタブレット機器を使用できるよう、実施期間を例年より長く設定した。また、授業の実施日を決め、参観者を事前に割り振ることで、計画的に参観を行うことができた。
- 年次研修を含めて 3 回の研究授業を行った。
- 授業アンケートの「授業の内容が分かるようになっていきますか」という問いには、61.4%→61.3%の生徒が「そう思う」と回答しており、目標の 52%を上回ることができた。「だいたいそう思う」も含めると 92.8%→91.5%と、9 割以上の生徒が肯定的な回答をした。

取組内容⑦について

- 校内研修会を設けることはできなかったが、校舎や教室の掲示物にユニバーサルデザインフォントを利用したり、職員室への入室の仕方、廊下の進行方向を明示するなどし、生徒が過ごしやすい環境づくりに努めた。
- また、授業アンケートでは、「授業の最初にその授業の目標が示されている。」という問いに、94.5%→94.6%の生徒が肯定的な回答をした。
- ICT 機器の活用については、「取組内容⑧」に記載している。
- 校内調査(教職員アンケート)における「学校全体でのユニバーサルデザインの授業や ICT 機器の活用により、生徒の学習理解の充実が図られている」という問いに対して、96.2%→100%の教職員が肯定的な回答をした。

取組内容⑧について

- 校内調査(生徒アンケート)における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに対して、81.3%→80.8%の生徒が肯定的な回答をした。これは、前年度の 70.1%を上回っており、目標を達成した。
- 授業アンケートで、「ICT 機器が活用されている」という問いに対し、83.0%→83.4%の生徒が肯定的な回答をし、目標の 70%を上回った。
- 10 台のタブレット端末を職員室で保管するようにし、手軽に使用できるように整備した。
- 学校で購入した iPad、貸し出し用の接続コネクタ等も整備をし、ICT 機器が使いやすいように工夫を進めた。校内調査(教職員アンケート)では、「ICT を活用した教材の導入がしやすくなった」という問いに対して、84.6%→100%の教職員が肯定的な回答をした。

取組内容⑨について

- 今年度からのブロック支援予算で整備する予定であったが、その中身が戦略予算の内容と大幅に変更があり、実施の見込みが立たないことから見直しを行い、この項目は削除した。

取組内容⑩について

- 今年度は学校休業の影響で例年春と秋に 2 回実施していた新体力テストを秋に 1 回実施するのみとなった。しかし、秋の実施に向け日々のトレーニングを積み重ねた結果、昨年度の大阪市平均を女子は上回る結果と

なった。体力合計点も昨年度より向上し、大阪市平均に男女とも近づけることができた。

取組内容⑪について

- コロナウイルス感染予防対策として昼休みの活動を制限し、衛生面に配慮した給食の時間として取り組んでいるため、今年度はボールを使つての活動を実施することができなかった。球技大会については1・2年生で年間2回実施し、目標を達成することができた。3年生は授業補填と進路指導の充実を考え、実施することができなかった。

取組内容⑫について

- 9月に1年生を対象に、歯科校医による「歯と口の健康教室」を実施した。
- 助産師さんによる性に関する講話(2・3年生)を実施した。
- 健康教育委員会で、動画やスライドを作成し、学級での短時間の講座を6回実施した。

取組内容⑬について

- 学校評価アンケートでは「毎日歯を磨いている」という設問に対して、肯定的に答えた生徒の割合は98.8%、保護者の割合は97.4%と高い割合となっている。しかし、歯垢や歯石の状況は昨年度と比較して悪化している。懇談での、受診勧告や保護者への電話連絡、個別の指導を実施した結果受診率は、昨年度の16%から29%に向上した。

取組内容⑭について

- 学校評価アンケートの「学校は子どもの健康管理のために保健だよりや食育だよりを配布している」という設問に対して肯定的に答えた保護者の割合は90.8%である一方、「毎月配布される、保健だよりと食育だよりを読んでいる」という設問に対して肯定的に答える生徒の割合は45.5%にとどまっている。昨年度(34.9%)よりは改善しているが、約半数の生徒は読む習慣がないという点は今後の課題である。
- 安全衛生委員会・学校保健委員会を実施することができた。特に学校保健委員会では、健康診断の結果についての助言や、新型コロナウイルス感染症対策など、様々なご意見をいただき連携することができた。

次年度(今後)への改善点

- ①今年度のような手厚い指導・支援を行うためには、サポーターの確保が課題である。
 - ②家庭学習を行う生徒がさらに増えるよう、引き続き呼びかけを行っていく。
 - ③教科と学年がより連携し、得点低位層の生徒の学ぶ意欲を高め、学力向上にむけた取り組みを行っていく。
 - ④家庭学習の取り組みについて、学年から発信する機会を増やす必要がある。
 - ⑤今年度実施できなかった夏季休業期間中の補充学習を検討する。
 - ⑥新学習指導要領の完全実施にともない、教師側が学ぶ機会を増やす。
 - ⑦ユニバーサルデザインについて、より理解を深める。
 - ⑧新しく導入される端末を有効に活用できるように環境を整え、生徒がより主体的、対話的に学べる授業をめざす。
- 次年度は、テストの在り方を見直す1年間とする。生徒が本当の学力を身につけることができるような施策を考え、改革を進めていく。
- ⑩今年度は学校休業の影響で運動不足で体力が低下した状態でのスタートとなったが、個々に体力の向上を目指し積極的に取り組む生徒が多かった。今年度の努力や成果を確実に生徒へ伝え、来年度は体力や記録の向上に加え、何事にも積極的に取り組む精神を鍛えつつ、さらに関心意欲を高める指導に取り組んでいきたい。
 - ⑪昼休みにボールを使う活動は、感染予防に特化した給食指導を行っている関係で取り組めない状況であった。

来年度は、指標の設定を変更するか給食の時間短縮を検討する必要がある。

球技大会に関しては年間 2 回の実施を来年度も継続して行い、学年やクラス、グループで活動する中で互いを認め合い、協力できる集団作りにつなげ、健康や体力を保持増進する力をつけていきたい。

⑫講師を招いての特別講座実施は、例年より減少したものの、健康教育委員会では積極的に短時間でできる講座を作成し実施することができたことが良かったので、次年度以降に更に回数や内容、また委員会活動などで生徒や校医の先生とも連携していきたい。

⑬⑭歯科の受診率向上と保健だよりや食育だよりを読む習慣の向上が課題である。学級担任と保護者と今より更に連携していく必要がある。